令和6年度第1回京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会
会 議 録

- I 開催日時 令和6年7月12日（金） 午前10時00分～正午
- II 開催場所 京丹後市大宮庁舎第2・3会議室
- III 出席者 丸田智代子会長、芦田重行委員、菱田哲郎委員、上杉和央委員
河合温美委員、藤田泰弘委員、増田俊彦委員、中村秀雄委員、
嶋田真美委員、古武成美委員、小林朝子委員、向田明弘主査（代理）
（※菱田委員、上杉委員、嶋田委員、向田主査はオンライン）
- 事務局 松本明彦教育長、川村義輝教育次長、村田雅之課長、本田咲子主任、
奥勇介主任
- 欠席者 松原典孝副会長、池田正博委員、末次一子委員
事務局：岡林峰夫課長補佐、藤田智子主任、村上公太主任
- 傍聴人 1人

IV 次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 「京丹後市文化財保存活用地域計画」の実施調書について
 - (2) 計画推進にかかる報告事項
- 3 その他
- 4 閉会

V 議事要旨

1 開会

<事務局>

本日は公私ともに御多忙のところを御出席いただき、ありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会を開会いたします。

なお、本日の会議は対面式とZ o o mを併用して開催しています。

それでは開会に当たりまして、京丹後市教育委員会を代表して、松本明彦教育長が御挨拶を申し上げます。

<松本教育長>

皆さんおはようございます。

本日は本当に御多用の中、オンラインの皆様も含めまして、第1回京丹後市文化財

保存活用地域計画推進協議会に御出席いただきまして本当にありがとうございます。

さて、昨日今日とは少し天候も落ち着いておりますけれども、京丹後市においても本当に梅雨が明けていないにもかかわらず猛暑日が続いているというようなことで、学校現場を含めて教育現場の中でも厳しい対応を求められておりまして、京丹後市は小学校において起点の場所から3キロ以上の子どもたちにはスクールバスでの登下校を支援しているところですが、この夏の厳しい暑さに対応するために、昨日から、下校に限り小学校は2キロ以上の子どもたちもスクールバスに乗って帰るという対応をしているところであります。

また、昨今出ました熱中症の特別警戒アラートにも対応していかなければならないため、この20日には中学校の夏季大会等も迫っているわけですが、特別警戒アラートになったときの基本的な学校での対応、休校対応や大会の延期等についてもいろいろな団体等とも連携しながら、そうした熱中症対策を進めているところでございます。

さて本市教育委員会では、令和5年度より策定しました京丹後市文化財保存活用地域計画に基づいた様々な事業を展開しているところで、昨年度は、文化財保存活用基金の設立もさせていただいております。これはふるさと納税等で、文化財の保存活用に対して用途を明確にした寄付が多額になったことも追い風としましてその基金を設立させていただいておりますし、京丹後市市民遺産制度の創設もさせていただきました。

また、京丹後歴史文化めぐりマップのリリースなど新しい取組にも着手してまいりまして、今年度はそれを具体的に進めていく段階だというふうにとらえているところです。特に京丹後市市民遺産制度につきましては、本年度の4月から申請の受付をしたところです。この制度は、国や府、市の文化財制度ではなかなか光を当てることが難しかった地域に根差した文化財に輝きを持たせ、市民の皆さんが大切に守り伝えてこられた営みを後世に伝えていく制度としてスタートさせたもので、申請受付当初から申請方法などについて御相談もいくつかいただくなど、市民の皆様の文化財の保存活用への高い関心が感じられているところでございます。

本日の推進協議会では地域計画で示しておりましたアクションプランにつきまして、大変膨大ですので、令和6年度分の主要な実施事業を中心に説明を行うことを予定としております。委員の皆様には忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではありますが開会の御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

なお、私も後の会議がありまして途中で退席させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

<事務局>

続きまして丸田会長より御挨拶をいただきます。

<会長>

皆さんおはようございます。

お忙しい中御参加いただきまして、ありがとうございます。

私、観光業者といたしましても、今日の会議の中で新たな京丹後市の輝きを見い出して、持って帰りたいと思っておりますので、どうぞ皆さん活発な御意見をよろしくお願いいたします。

(事務局より、資料の確認)

<事務局>

本日はZ o o mを併用しております、モニターに映っていただいております、菱田委員、上杉委員、嶋田委員、あと京都府文化財保護課の課長石崎委員の代理の向田様に御出席をいただいております。また、松原副会長と池田委員と末次委員からは御欠席の連絡をいただいております。小林委員につきましては15分程度遅れて御出席なさるとのことです。

なお先ほど教育長挨拶でもございましたが、教育長は途中公務のため中座をさせていただき予定ですし、菱田委員につきましても11時25分前後ぐらいに退席なさる予定です。御承知おきください。

続きまして、次第にはございませんが審議委員の皆様の御紹介をさせていただきます。令和6年6月1日付けで3人の方に委員を新たにお受けいただきましたので、こちらで御紹介をさせていただきます。

まずお1人目、京丹後市区長連絡協議会から芦田重行委員に新たに委員になっていただいております。続きまして本日オンラインで御参加いただいております、京丹後宿おかみさんの会の座長を務めておられます嶋田真美委員です。続きまして、一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社(通称:海の京都DMO)の総合企画局 文化観光サポーターの古武成美委員です。

本来であれば、委嘱状を直接お渡しすべきところではありますが、今回机上配布にて委嘱状交付しております。また嶋田委員につきましては郵送でお送りをさせていただきます。御理解のほどよろしくお願いいたします。

議事に移る前に、本日の会議の会議録を確認していただき署名をいただく方の選出をお世話になりたいと思います。名簿の順に地元委員の方にお世話になることとしておりまして、今回は増田委員にお世話になりたいと思っております。後日改めて連絡をさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の会議次第により進行させていただきます。

これ以降の進行は会長にお願いしたいと思っておりますので、丸田会長よろしくお願いいたします。

<会長>

本日の会議は12時までを予定していると聞いております。円滑な議事の進行に御協力をお願いいたします。

2 議事

(1) 「京丹後市文化財保存活用地域計画」の実施調書について[資料2]

<会長>

次第に沿って、議事(1)「京丹後市文化財保存活用地域計画」の実施調書について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局より説明)

<会長>

ただいまの説明について御質問、御不明点などはございますでしょうか。御意見お願いいたします。

<委員>

資料の10ページ目、2-1-5あるいは2-1-6、現在網野銚子山古墳の整備をしていて、来年公開ということになっていますが、その後はどんなふうに考えておられるのかずっと関心を持っていて、ここで初めて赤坂今井と函石浜という名前が具体的に挙がってきました。ということは網野銚子山古墳の整備事業が終わったら、こちらへ移行するというふうに考えてよろしいでしょうか。あるいは、どこに絞ってやるかについてはまだ検討中ということなのでしょうか。その辺り教えてください。

<事務局>

ありがとうございます。事務局からお答えさせていただきます。2-1「丹後王国」の成立から興隆に関する措置の中の2-1-5、2-1-6というのは、特に今回初めて出してきたものではなく、以前から、この計画の段階で項目としては挙げております。

今委員が気にされているのは、網野銚子山古墳整備後の次の整備がどこになるのかという辺りだと思いますが、こちらに関しては現時点ではまだ、次をすとか、次はどこにすとかいうことは未確定の要素が強く、今後検討する中で、少なくともこの地域計画の中にあるものを我々はしていきたいと考えておりますので、とりあえずこういった複数対象となるものを挙げているというところで御理解をいただけたらと思っております。

<委員>

分かりました。

<会長>

ほかにどうでしょうか。

本当にたくさんあって、私が面白いなと思ったのは御墳印、これは面白いなど、単純にこれは何か使えそうだなと。私たちおかみさんの会でも、皆さん神社とか仏閣に行ったら必ず御朱印帳を並べて、御朱印を集めるのが楽しみなので、銚子山古墳だけじゃなくて、神明山古墳とか、いろんな古墳の御墳印ができればなと思ったりもしますが、どうでしょうかね。

<委員>

私も初めて聞いて、今調べてみたところ、関東が中心みたいですね。なので、そういう意味で向こうからお客さんを呼ぶ道具立てとしては、もしかするといいのかなあという気はしています。

<事務局>

事務局から御墳印について少しだけ補足説明させていただきますと、今委員さんが関東のほうでというふうにおっしゃっていただきましたが、京都府内では、実は先般与謝野町の観光協会などで取り組まれていることもありますし、全国的にはこの御墳印というのは古墳めぐりをしたい一定のファン層というのがかなりおられるということもありまして、網野銚子山古墳の史跡オープンの暁には、かなりのそういったコアなファンが来ていただけることも1つ見込めるのかなと。それを今展開しているめぐりマップのいわゆるスタンプラリーと絡めるということは、本当に意義があると思っております、これにつきましては昨日補正予算を承認いただいたところですのですぐ進めていきたいと考えておりますし、今会長からもありました御墳印の種類についてもまた検討していきたいと考えているところです。ありがとうございます。

<委員>

銚子山古墳の話があったので関連して。

先月の29日の土曜日に、たまたま車で走っていて「古墳にコーフン！バスツアー」とフロントガラスに書いた観光バスとすれ違ったので、後で調べたら鯖江市の教育委員会主催で、市の補助金が出ているようで安いお1人様4,000円のツアーをしておられたようです。バス2台ですよ。大型と小型と。どこに行くのかなと思って、最初は神明山古墳と順番が書いてあったので神明山のほうを走ったらいなくて、もう昼だし昼飯を食べているだろうと思って丹後王国のほうへ走って、駐車場に行ったらおりましたのでいろいろ聞いてみました。

そしたら、募集をかけたところ、市民から130だか170名の応募がありまして、そのうちから抽選で70名が2台で来たと。食事の後神明山古墳へ行って、銚子山古墳、それから与謝野の蛭子山古墳を回って帰るんだと。鯖江市にも兜山古墳というのがあって、出発地はそこだったみたいで、結構そのファンがおるんだなと感じました。

毎年やっているということです。

こちらの事務局にも観光公社から連絡は入っていると思いますが、連絡して交流してみたらどうですかというような話をしました。うまくPRすればそうやってよそからも来ていただけるんじゃないかなというふうに思いました。他市町の教育委員会さんがどういう取組をやっているかということも参考になるとと思いますので、ぜひ積極的に各地のそういったところに声をかけていただいたらどうかなと思いました。ちなみに去年は200名の応募があったそうです。

<委員>

御墳印の件に関しては面白そうなので進めていただいて、ただ、人がいないと御墳印が差し上げられないというのもどうかなと思うので、AIとか使って、それをもって近くのところへ行くと御墳印がいただけるとか、いろんな仕組みは考えられるのかなど。やはりそういうのがあると、一生懸命コンプリートしたいという方がおられるというのは分かりますので、そんな仕組みがいいかなと思っています。

もう1つ市民遺産の件です。今もう既に受付中ということですが、この辺りは多分今後非常に重要なテーマになってくるかなと思っておりまして、既にこんなあるよということがあったら、例を挙げていただければ今後どういうふうに進めるかというヒントになるかなと思いますのでお願いします。

<事務局>

御墳印の関係です。先般リリースしました京丹後歴史文化めぐりマップですが、まだ実装はできていないのですが、見ていただくと、文化財マップの横におすすめコースというのがあります。それを見ていただきますと、スタンプラリーという項目自体はあるのですが、押してもまだそれはオンにはならないです。ただこれがオンになった暁には、めぐりマップ上にそのスポットを落としているんですが、そこに行ったときにボタンを押すと、そこに行ったという印が付くようになっています。これは携帯やタブレットのGPS機能を使ったものになっておりますので、達成するにはそこに行かないといけないというふうにしておりますので、今委員からおっしゃっていただいたことと似たような機能が実装できているので、ぜひ皆さん行っていただいてスポットを達成していただけたらなというふうに考えております。

<事務局>

市民遺産については4月から公募を開始しまして、今年度目標10件を目指してやっていますが、今の時点で10件に迫る勢いで相談を受け付けています。

個別にこういうのが出てきているというのは、これから第1回目の市民遺産会議をするので今の時点ではなかなか申し上げづらいのですが、従来の文化財の分類に含まれるお祭りや古文書といった類のものもありますし、あとは従来の文化財に含まれない、広く歴史文化といっている分野になりますが、そういったところのものも若干出

てきてはいます。

近日中に1回目の市民遺産会議をする予定ですので、そこで1回目の認定審議を図ろうというふうに考えています。

<委員>

弥栄町鳥取には遠處遺跡、ニゴレ古墳などたくさんあるんですけど、そういうものも登録できるというようなことなんでしょうか。

<事務局>

はい。十分認定の対象になってくると思います。市民遺産自体は、従来の文化財と言っていた遺跡や古墳も当然含まれますし、先ほど申し上げたようにお祭りとか古文書といった類のものもあります。あとは歴史文化という文化財の広い枠組みでいくと、食文化でばら寿司とか、例えばですけど、遺跡を復元した復元住居とか、従来の文化財の枠組みではなかなか拾えないけど準文化財に関連するものということで、歴史文化という枠組みで拾っていこうというものもあります。

なので今おっしゃっていただいた遠處遺跡、ニゴレ古墳とか、あの辺の遺跡とか古墳に関しては、当然市民遺産の認定の対象に入ってきます。

<委員>

ありがとうございます。ちょっと検討します。

<会長>

ほかどうでしょうか。

<委員>

8ページの1-2-3というのは、ちょうど丹後暮らし探求舎で移住相談をしているところの移住希望者の人がよく活用する補助金なんですけど、これが文化財保存活用課のほうに載っていることに若干びっくりしています。どういうつながりでここにきているんだろうなと思って、今まで補助金を進めるときに、文化的な感じで話をしたことがなかったので、なぜ載っているんだろうという疑問でもあるんですけど、移住希望者の人が来て、空家を活用することによって町並みが保全されるというニュアンスなんだろうなとは思いますが、この活用する空家に関しては、最悪最近の家でも空家でもあつたりもするので、何か一定のラインだったりとか、あとは外壁を直すならプラス5万円とか10万円補助しますよみたいなものがオプションで付いたら意味合いを感じるなと単純に感じたところです。

空家って、住まなくなるとだんだんボロボロになっていって、街並みや景観を壊していくなというのは感じるの、ここにある意味を持った何かを増し増しにしてもらえたらうれしいなと感じたところです。

この空家改修補助金に関しては、下水道課のほうが水洗化を促進するために、水洗化をするならプラス50万補助金を上乘するというふうに付帯しているものもついてくるので、お金が欲しいというわけではないんですけど、何となく気付いたところです。

あと、全然ここには触れていないことなので質問なんですけど。つい2、3日前ぐらいに清新高校の地域コーディネーターをしている方から、高校生が峰山のほうにある飛行場のこととかも含めて、戦争の歴史を今に伝えたいということで、その時代に建った建物とかをもし潰すことがあれば、その材料を使った飛行船のレプリカみたいなものをつくってみたいという相談を受けて、それがどうこうはないんですけど、ここにはすごく昔の話と丹後震災までのことは結構載っていますが、戦争歴史って京丹後ではどうなんだろう、そんなに話を聞かないところだなと思っていて、触れるほどのことがなかったのか、触れる必要がないと思っているのか、どうなのかなというただの疑問です。

<事務局>

ありがとうございます。地域計画自体には戦争のことも一応触れてはいます。歴史文化の特徴の1つに戦争のことも入っています。ただ、措置についてはなかなか戦争に関して今後こういうことやっていきたいと思いますというのは現時点で載せていなくて、戦争に関しては、今それこそ清新高校の話がありましたが、清新高校の探究学習で、河辺飛行場の関係の探究をしているグループがありまして、その辺の現時点の中間発表といいますか探究の調べの成果を、今度の夏の古代の里の企画展示でパネル展示してもらおう予定でいます。

戦争に関してはもう1つ、今年度も京都府立大学との共同研究事業で沖縄戦の関係の調査を京都府立大学主体でやってもらってまして、現時点での成果に関しても今度の古代の里資料館の展示で出す予定でいます。この沖縄戦の関係は、上杉先生が代表で共同研究していただいています、今何か報告等しゃべっていただけることってありますか。

<委員>

はい、ありがとうございます。今お伝えいただいたように、京都府立大学のACTRという地域貢献型特別研究、私は副委員長をしまして、その中でやっています。戦後80年に向けて戦争のことがどんどん忘れられていくという中で、最後どういふふうに記憶みたいなものをつむげるかという、先ほどあったように高校生も地域のことをやっていますけれども、大学生、私たちもそういうのをやっていて、この夏に展示をさせていただきます。こういうのもしっかりと地域計画の中に位置付けているというのが大事なかなというふうに思っています。簡単ですけども、以上です。

<委員>

ちょっとよろしいですか、今すごく貴重な御意見をいただいたと思います。特に戦時中の基地とか飛行場というのは、かなり危機遺産的なところがあって、それをどうするかというのはいろんなところで取組があります。

実は、兵庫県の加西市というところでも文化財保存地域計画に関わったんですが、そこでは重点施策でそういう戦時中の飛行場跡の教育活用というので、今そこは資料館をつくって多くの小学生が学習する場になっているというような例がありますので、ぜひそういったほかの先行事例も御見学いただいて、近代の文化遺産というものも、こういう保存と活用ができるというのを見て、また計画に反映していただければというふうに思います。

<事務局>

ありがとうございます。戦争に関して近代遺産とかそういったことに関しては、確かに今後重要になってくることだと思いますので、次期計画とかも内容も含めて検討していきたいなというふうに思います。

<会長>

ありがとうございます。私も琴引エリアで遊歩道を歩いていたら、実際に年配の方から「あそこに上から爆弾が落ちてきて」とかすごくリアルな話を聞いたりとかして、むしろ京丹後市で、それこそさっきの飛行場の跡とか、実際に残っているところとか、現在記憶に残っている方が何人かいらっしゃるの、その辺の拾い上げもぜひぜひお願いしたいなと思っております。

先ほどおっしゃった空家の補助とかがここに挙がってくるとかっていう形なんですけれども、先ほどから今度、資料館のほうで高校生の展示があるという情報、この間もそれこそつくられました京丹後歴史文化めぐりマップのQRコード付きのカードも、結構一般市民は知らないんだよねっていうところがたくさんありますので、せっかく夏休みに展示とかされるのであれば、ぜひ私たち観光業者も、前もって分かっていたらお客様に寄ってくださいと言えますので、自分もいろいろ関わっている中で情報の発信が下手くそなのはよく分かっておりますけれども、できるだけ発信していただくということでお願いしたいと思っております。

ほか、どうでしょうか。

<委員>

いくつかコメントさせていただければと思います。

出てきた中で御墳印のことについてほかの事例も委員の皆さんからあったと思いますが、亀岡市の地域計画の委員会に参加しているのですが、先般、そこでは市内の中世・近世のお城についての御城印についての取組が、かなり「やります」というので出てきていました。なので先ほどあった御墳印もそうですけれども御城印とか、あと個人的にはうちの子どもは水族館の水族印みたいなものを集めていて、何じゃそれと

か思いながらもあったんですけども、こういうのが今ブームになって、そういうところはしっかりと先ほどあったその観光業者さんとの連携も含めてしていただければ。

そのときに、今回出てきていないのが御墳印帳はどうされるんですかっていうので、岡山の日本遺産で桃太郎伝説っていうのででっかい古墳群であったり、埼玉の古墳群とかでも御墳印をつくっているんですが、そこには御墳印帳があるんですね。これって売れるんですよ。売れるということは経済的にも回っていくということになります。例えばそれに、埴輪のキャラクターありますよね、さっき出てきたけど今見つけられないんですけども、例えば網野銚子山あの辺りの特徴を踏まえた表紙の御墳印をつくるとマニア垂涎の的になるかなと。一般市民までどこまで行くか分かりませんが、1枚つくるのではなくて、近隣の御城印との関係とか、遠くの御墳印との関係とか、この辺りの連携っていうのも必要になるだろうというふうに思いました。

2点目は、市民遺産のお話があったと思うんですけども、それについて事務局から回答があったとおりなんですけど、この委員会としては、市民遺産というのは地域計画の中で作った4つの歴史文化、それから11のストーリーというのを作ったと思います。その11のストーリーに沿っているものというのが、大事な判断基準だと思うんですけども、先ほどあった個別の古墳というのは、それはそれで大事です。それはなぜ大事なのか、学術的に大事なのは文化財になったらいいと思うんですけどもそうではなくて、市民遺産、市民にとって大事というのは、その11のストーリー、京丹後市の光を抱くようなものだからこれは市民遺産になるよっていう判断をぜひ、今年度から運用されるので、そこは最初から堅持していただきたい、その11のストーリーを市民遺産会議の中でも共有していただくし、市民の方にもそれを共有していただくことがとても大事になるかなと思いました。

その中で、同じことなんですけどやっぱり広報って大事だと思うんですよ。市民遺産をつくりましたっていうので、今回10件ほど認定するとなっていますが、認定した後どうするのかも考えておかないと、認定して終わりだと寂しい気がするので、市民遺産会議でぜひその辺も御検討いただければと思います。市民遺産御朱印とかつくってもいいのかもしれない。すみません。余計なこと言いました。

3点目ですが、副読本をつくってそれを生かすという説明があったかと思います。4ページ目の17番の措置ですかね。リンク先で民俗芸能などの動画が見られるようにするといった、こういうことを行いますという、これはとてもよい取組だと思います。その時に、どういう動画のリンクを貼るかというようなところを少し気にしていただければと思います。というのも、いろんなところでこういう取組をしていて、いくつか評価する場面があるんですが、民俗芸能のリンクが貼られているんですけども、それが20分ぐらいある動画だったりするんですね。そうすると、教育現場で例えば授業中に使うとなったときに、20分も見せられるわけがない。そうすると、例えば1分か2分ぐらいのダイジェストで要点を示すようなリンクだったりしますがまずは必要になると思うんです。その上で、特に興味を示した小中校の子どもたちは長いものも見に行くことができるというような2段構えみたいなどころ。教育現場でどう使うのか、

それから興味を持った子はどうそこから伸ばしていくのかという2段階でデジタルのほうもぜひ考えていただければなという気がします。ほかの自治体でも単にリンクを貼っただけというのが結構あって、結局使えないとか、全部見れないよねっていうことがあるので、その辺、ぜひ御検討いただければと思います。

すいません長くなりましたが、以上です。

<事務局>

いろいろと御貴重な意見をいただきましてありがとうございます。副読本の活用方法とか、今動画の説明もありましたが、確かに教育現場でどうやったら使いやすいかっていうところは抜け落ちてしまいがちですので、その点注意しながら、今後、素材をまず集めるところから始まりますので、その際には、今言っていたようなところを気にしながら準備を進めたいと思います。

<会長>

ありがとうございます。

<委員>

気になっているところとしては、どうやったら人を呼べるかみたいなところをすごく私は考えるんですが、私が今やっている仕事として無形文化財、お祭りとかの保存と活用をさせてもらって、古墳とか史跡の有形文化財に関してはものすごく頑張っておられるんじゃないかなと思うんですが、私が今やっている無形文化のところと有形の文化財って結構ストーリー的にはつながってくるよなあと思っていて、例えばお祭りで神社に向かってお祭りの踊りをやっているように見えるけど、その先にいる神様に向かってやっているんだみたいなところを私は聞き取りで聞いて、そういうストーリー的なところを網野銚子山古墳で、ただ「こんな史跡が出てきたよ、やったあ」みたいな感じじゃなくて、これは誰がどうしてみたいな、どのルーツの古墳でみたいところまで分かって初めて面白ってなるものだと思っています。

全体的になんですけど、ストーリーっていうところは地域計画で大事にされているところなので、物理的にこうなった、こうやって見せたら、みたいところじゃなくて、なぜっていう、人の興味をかき立てるところがもうちょっと意識されると、私も仕事につなげやすいなと思っておりますので、ぜひDMOとも協力して、活用させていただければと思っております。

その副読本も、大人が見てもすごく面白いので、市民全員には無理ですけど、どうかして大人が見られるようなところに、似たようなものを置けたりはしないかなと思っております。副読本という形ではなくってパンフレットみたいな形で、めぐりマップをパンフレット化するとか、紙ベースで何かがあると、インターネットだけではなくて、めぐりマップってインターネットが使えなくなったら終わりじゃないですか、紙ベースで何か小さいパンフレットでもあれば、スタンプラリーとかもそうですけど、

子どもも参加しやすいし、より広い層に届くし、手に取りやすくなるかなとも思っていて、めぐりマップに関しては、そう大人が見られる副読本みたいな立ち位置になったらいいなと私は勝手に思っているところであります。

もう1つよろしいですか。市民遺産に関して、先ほどもおっしゃっていましたが、「市民遺産にしてもらった後何してくれるの？」みたいなところが、多分市民の方はあるなと思っていて、あと、「震災記念館が綺麗になってリニューアルして活用できた後、じゃあどうすんの？」みたいなところと、「古墳も綺麗になって活用される。じゃあどうすんの？」みたいな、未来があまり見えないなと今思っていたので、その辺は、また後で話されるかもしれませんが今後も考えていけたらなと思いました。以上です。

<事務局>

最初に、無形民俗と有形民俗の融合といますか、ストーリーの大切さというところをおっしゃっていただいたかと思いますが、具体的に決まったわけではないんですけども、銚子山古墳のガイド養成講座なんかで、現地で語っていただく方にそういったストーリーとか、直接伝え、語りかけていただけるように、ガイド養成の中でそういった話なんかも組み込んでいく必要があるのかな、そういったことを伝えたほうがより面白いのかなと思いましたので、そこはガイド養成のところに反映をできるようにしたいなと思いました。

副読本ですけども、ほしいという問い合わせもありますし、特に大人の方から紙版をいただけないかという問い合わせは、結構きているような状況で、子どもだけではなく皆さんに汎用性があるものなのかなと感じています。すぐに紙で印刷して配布というのはなかなか難しいところはあるんですけども、めぐりマップを大人版の副読本にできないかというアイデアもありましたので、めぐりマップ上の、構成とか変更とか内容を変えることは、手元でできる場所であるかなと思いますので、そのめぐりマップの運用上で何か副読本を絡めたことができないかなあということをちょっと今思いましたので、今年度の課題として検討を進めたいなと思います。以上です。

<委員>

本日県外から参加させていただくに当たって、会議後に京丹後市をめぐってみたいなと思ってめぐりマップを見させていただいたんですが、スタンプラリー的にいろいろ増えたらいいなというところがあったので、このスタンプラリーでできるようになるっていうのはすごく楽しみなところでもあります。ちなみにスタンプラリーで回ったら何か景品がもらえるとかできたらいいですね。

<事務局>

今年度実施するスタンプラリーでは、銚子山の御墳印をプレゼントしたいなと考えております。

<委員>

ネット上で回ったら何か商品券だったり、道の駅で何かちょっとしたものもらえたらやりたいな、うれしいなと思いました。

先ほど他の委員がおっしゃっていたことにも絡んでなんですけれども、今めぐりマップがあって、簡単にどういったところがあるかを知れてすごくありがたいなと思ったんですけど、一方で、食の部分、景観の部分、お寺の部分と分野で分かれていて、もう少し大きい枠組みで見たいなというのがあって、古墳であったり歴史文化の地形であったりとか、景観が大きく関係していると思いますし、先ほどのお祭り、芸能と古墳であったり歴史文化とも大きく関係していると思うので、そういったところを、今分かれているので、もうちょっとストーリーとして分かるようにめぐれたらもっといいなと思いました。やはり県外から来ると、全部見て回りたいというところもあるので、一目で見て分かるような大きいマップもうあったら、今、自分で行きたいところをもう1回自分のマップに移してまとめる必要があるような感じだったので、1個で見えたらいいなと思いました。

あと、他府県から来るとどういう交通手段で行ったらいいか分からないというところもあって、ここは徒歩で回れるのか、バスがあるのか、電車があるのかなっていうところが明らかになるとめぐりやすいってというのがあって、ドライブで回れるコース、電車で回れるコース、バスでめぐれるコース、ハイキングコースになるとどこに入口があってどうやってそこに辿り着いたらいいか分からないっていうところがあって、コースを設定するにしても、まずはどこから入ってそのコースのスタートに立てるのかっていうところが分かる行きやすいなっていうも思っています。新潟県の越後妻有のホームページでは、ドライブコース、バスコース、ハイキングコースみたいに分かれていて、公共交通機関でこういうふうに戻れるんだと分かったので、すごく参考になるなと思いました。

ツーリズムの観点から言いますと、京都方面から京都を通って来ようとする、福知山や宮津を通ると思うんですけれども、京丹後市内を回ろうとするとレンタカーが一番効率的なんですが、京丹後市内で駅近いところにレンタカー屋さんがないので福知山や宮津で借りる必要がある。例えば宮津に来た人が、天橋立や伊根にも行くけれども、そこから京丹後にも行ってみようと思えるような、宮津であって福知山から京丹後に来てもらう導線づくりというのも、情報発信であったり、ツーリズムのところとして持ってきたらいいんじゃないかなと思いました。以上です。

<事務局>

今、いろいろ言っていたことは、実は我々の課題として令和6年度にしないといけないところだなと思っていることをおっしゃっていたので、きちんと取り組まなければと思っているところなんですけれども、めぐりマップで今細かい分類になっていて分かりにくいところがあるということで、もう少しつながりを持ったものということで、おすすめコースを今は1つしか上げていませんので、今年度はもう少し

しアップして皆さんに見ていただけるようにしたいなというふうに考えています。

これもまだ案段階ですが、先ほどおっしゃっていただいたように、公共交通機関が使えるのか、車で行くルートなのか、はたまた徒歩なのか、ジオトレイルみたいな形でたくさん歩くコースなのか、という辺りを分類したものを載せたいなと思っていました。ジオトレイルや徒歩は、比較的いろんなコースがある程度確立しているところがありますので、その辺もめぐりマップに載せつつ、県外の方は多く車で来られますので、車で回れるコースという形で、いくつか分類したものでアップをしたいなというふうに思っています。

つながりを持たせたものという大きな枠組みでもう少し見たいというところがあると思います。これもまだ案段階ですが、例えば伝説・伝承みたいな形でいろんなルートが回れるとか、大きなテーマでマップのルートをつくりたいなというふうには考えております。ジオに関したもので、海岸沿いをひたすら歩くコースとか、あと先ほど申しあげました伝説・伝承で七姫伝説を回るとか、そういったもう少し大きい枠組みのことを今後も検討を進めたいと思っています。

公共交通機関については抜け落ちてたなと思いますので、バスや電車を組み合わせて確実に行けるようなルートなどを観光公社さんとも御相談して、プロの方たちの御意見を聞きながらしていく必要があるなと思いました。他府県でもしておられる例があるということなので、そちらも参考にしながら進めたいなと思います。以上です。

<事務局>

先ほど委員がおっしゃっていただいたことで触れていなかった部分がありますので、触れさせていただけたらと思います。

御朱印帳ならず御墳印帳ですとか御城印帳、福知山市辺りも御城印ということをしてされているのは存じ上げているところではあるんですが、割と思ったより人気といいですか、ファンというのが本当に多いかと思えます。個人的な話ですけど、私も実は御朱印帳を持っています、機会があったときにはいろんなところをめぐって、書いていただいたりしているようなことがあります。

御墳印帳のことは現時点ではその予算化ができておりませんが、今回のスタンプラリーの景品を機に、それなりの反響を多分いただけるものじゃないかなと思っております。なので、この辺りはぜひ来年度の予算の検討の1つとして、我々事務局のほうで考えていけたらなというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

また副読本の活用に関しても今御意見をいただいております、今までは中学校の社会科副読本という極めて限定した使い道しかしていなかったんですが、今回令和5年度中に、副読本を改訂するに当たっていろんな方から御意見をいただいて、今回こういったものができました。これいわば初めてのものということもありまして、我々としても本当にずっと使っていきたい、多くの人に見ていただきたいというのは、当然本来使っていただく小中学生の部分以外で活用できるかと。我々の根幹でもあり

ますので、そこはぜひとも今後ともやっていきたいなと思っております。

<会長>

ありがとうございます。それこそ御墳印帳なんですけれども、せっかく丹後ちりめんのところなので、ぜひシルクでデザインしてほしいなど、私個人的に思っておりますのでよろしく願います。

(2) 計画推進にかかる報告事項 [資料3・4]

<会長>

皆さん活発に、協議していただきまして、前後するんですけれども、続きまして議事2計画推進にかかる報告事項について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局より説明)

<会長>

ありがとうございます。令和6年度の主要事業実施事業についての説明でしたが、いかがでしょうか。

<委員>

先に抜ける関係もありまして、少し質問とコメントをさせていただきます。

先ほどからもお話がありましたが、御朱印は本当に有効で、兵庫県立考古博物館は弥生の遺跡の上であって、弥生時代の御朱印というのを販売しております。ぜひぜひ、こういう形でいろんなところとつながれる御朱印っていうのは、活用していただければと私も思いました。

それで、網野銚子山が今年いよいよハードのほうができあがって、オープニングなどソフト事業も展開されるということですが、気をつけていただきたいのは、持続可能なソフト事業というのをどうこれから発進させるかということで、一過性に終わらないための工夫というのが1年目から必要になるのかなと思います。

先ほど、5番の高龍小学校との連携のところで御紹介いただきましたが、継続していくと小学生たちが年々非常にアクティブになっていくのが分かるというか、大学生が小学生に押され気味になるぐらいの、継続していくことによる成果というのがありますので、やはり網野銚子山については網野の小学校が近くにあるので、ぜひそこの連携を早くつくって、継続していくことによって、例えば網野の小学校の小学生がほかの小学校の訪問者に説明ができるような、そういう自分たちの文化財、自分たちの史跡という思いが持てるような授業展開をしていただけるとありがたいなと思っております。ですので、先ほど出てきた御墳印に高校生の書道部が参加するというのもすごくいいことだなと思って聞いておりました。

あともう1点は、やはり丹後震災記念館を今後どうしていくかは、別途今プロジェ

クトチームをつくっておられると思いますが、ここまでお話してきたような、やはり小学校の連携はすごく重要で、特に小学校4年生ぐらいがこういう自然災害の学習を重点的にしているんじゃないかなと思うんですが、市内の小学生が必ずここを訪れてそこでそういう授業を聞くみたいな仕組みをつくと、毎年同じ学年を対象にすると必ず毎年小学生が来るということで活用が図れますので、小学校のふるさと授業プログラムの中に加えられるような工夫をしていただきたいなと思っています。

全体を通してですが、網野銚子山のことも含めて、かなり多くの町内の部署が連携することによってできる事業が多いということや、また地域の住民の皆さんとの連携も不可欠なものが多いので、やはりこの会議というのは、そういう町内連携や地域との連携が担保できているかを確認する会議でもありますので、是非ともそこを改めて再確認していただければと思っています。以上です。

<会長>

そのほか御意見ございませんか。

<委員>

3ページです。フードツーリズム、ジオツーリズム、産業、以下、たくさんあるんですけども、たくさんある中で書いてあるやつってそうもないんですよね。去年と今年が実施年度になっていますけれども、なぜこのところは書いていないのかなと。この実施状況を教えていただきたいというのが1点です。

<事務局>

文化財に関連するエコツーリズムの推進の措置の中で、実施がない課かがあるけれど、どういう状況かというところで合っていますか。

<委員>

はい。結果が書いてあるところがありまよね。

<事務局>

これは担当課がするかどうか判断をして、しないということで上げてきていただいているので、それ以上のことを今持ち合わせてなくて申し訳ないんですけども、事業として、今年度また来年度以降する予定等も今ないということで上げていただいています。もし、する予定があれば翌年度以降にでも丸を付けて出していただくようにしていますので、今のところはないということで上がっていますので、事業として今検討していないという回答になるかと思います。

<委員>

ということは、例えば伝説・伝承ツーリズムについてもこの中には書いていないん

ですが、これはもうなくすということになるんですか。多分担当課は文化財保存活用課ですよ。

<事務局>

この中に書いてある伝説・伝承ツーリズムで文化財保存活用課の項目の中で書いていないから、そのツーリズムはしないのかということ合っていますか。

<委員>

ずばり言ったら、そういうことです。

<事務局>

しないというわけではなく、文化財保存活用課としては令和5年度から計画が終わる9年度までこの項目については引き続き実施をするということで、特にしないということ述べているわけではなく、中でも今年度は史跡ツーリズムの銚子山古墳のオープンに合わせたツアーをしたいということで、特出ししてそこを書いているだけの状況です。

今おっしゃっていただいた伝説・伝承ツーリズム、ここには書いていないんですけども、めぐりマップでこの辺りをフォローできるような、補填できるような取組ができたかなというふうには考えております。

<委員>

ということは実施年度が令和9年度までということになるわけですよ。昨年度とかも今年度も丸が付いていないので、この2年度にわたってやるのかなと思っていたんですけど、そうじゃないということですね。

<事務局>

表が見にくくて申し訳ないんですけど、担当課がいろいろ書いてあるところに黒丸が3つと白丸が3つ並んでいると思います。

その白丸が3つ並んでいるのが、前期、後期、次期計画というふうに並んでいて、この前期、後期、次期計画まで含めて今の計画が5年間で令和9年度まで、その後の次期計画も5年間で14年度まで、その次期計画までの期間も含めてその中でやっていきたいと思います。

その中で右側にいくと丸が5つ文化財のところに並んでいると思うんですけど、それは、今現在のこの計画、令和9年度までの計画の中でどの年度にそういったことをやりますかっていうことを示していて、今年度に関しては特出しで、先ほど申し上げましたが史跡ツーリズムをやっていくということで、右側に具体的な文章として書かせてもらっています。ヘルスツーリズムなり伝説・伝承ツーリズムなりほかのツーリズムに関しては、この後令和9年度までの今の計画の期間及びその後の次期計画の期

間も含めてその中で順次やっていきたいと思いますということで書かせてもらっている感じになります。

<委員>

それで分かりました。去年と今年だけやるのかなと思ったんですけども、そうじゃないということですね。ありがとうございます。

<会長>

ありがとうございます。ほかに御意見どうでしょうか。

<委員>

先ほどの飛行場の話で、資料館でそういう企画もあるということですが、観光公社の峰山支部なんですけども羽衣ステーションで何年か前に、飛行場をテーマにした街歩きをやったことがございます。そのときに、当時の練習機の模型がありましたので、もしよければ展示の1つに。羽衣ステーションの事務所に置いてありますので、使っていただいたらどうかなと思います。

大宮町河辺にそういう研究をされている方がおられますので、公民館を訪ねられたその方が多分おられると思います。冊子もつくっておられますし、そういったものを集めてくればいいのかと思っております。

あと、加西市にある鶉野飛行場は私は2回ほど行っています。滑走路があって、その突き当りに格納庫風の展示資料館みたいなのがあって、小学生とかがバスで社会勉強に来ていましたし、先ほどレプリカの話がありましたが、実物大の戦闘機やらそういったものが、昨年か今年1機また増えて2つになっていました。紫電改のレプリカが最初にできて、九七式艦上攻撃機のレプリカが天井に吊るされていました。あとコックピットとかそういったものもあったり。一度見に行かれたらどうかなと思います。民間の方が市から委託を受けて管理をしていて、そのグループがそういう飛行機のレプリカをつくって展示している。お土産物もいろいろつくっておられますので、また古墳関係のお土産もいろいろ、古墳カレーとか、観光公社のほうでそういう話をしたりしているんですよね、古墳ばら寿司とか、そういうのをつくれと言っていますので、ちょっと御報告。

<会長>

京都府から、御意見ございませんでしょうか。

<委員>

ありがとうございます。京都府でございます。4月からこの職に着任しましたので、ほかの市町の皆さんのこういう会議に出るのも初めてなものですから、充実した会議をされているなど拝見させていただいております。

私は民俗文化財の担当をずっとしておりましたので、その観点で2、3お話をさせていただければと思います。

民俗文化財の宝庫である京丹後市におかれましては、特に喫緊の課題としては担い手の問題かと思えます。これはどこもそうですけれども、どうやって芸能あるいは祭礼をつないでいくのかということは、それを担う人をどう確保していくのかという問題とも並行しておりますので、そういった意味で丹後学の歴史文化学習とか、その副読本なんかをおつくりになられて、小学校と連携しながらの取組をされるというのは、非常に意味があって重要なことかなと思います。中でも動画作成というのは結構重要で、委員からも御指摘あったように、どういう目的で、誰に見せるために、どういう内容を伝えたいのかというのが重要で、そういう意味では多分その映像のつくり方、地元映像会社さんとか映像に携わるお仕事をされている方がいらっしゃると思うので、そういう方が中心になっておつくりになるのかもしれませんが、誰に向けて、どのような目的でつくるのか、ということは十分にお話をした上で、長さとか、切り口って問題を議論していただきながらつくるというのが大事かなと思っております。

あとはその地域の中で、そういう担い手の問題をどう考えるか、地域によっては地域の皆さんだけでやるんだという行事もたくさんありますので、そういったところへ踏み込んでいくことはなかなか難しいでしょうし、そうではなくてウェルカムなんだという話もあるでしょうし、あと女性だとか、女の子だとか、というようなところへどう拡張していくのかということも地域によって様々な考え方があると思うので、そういうことも含めて行事を担う担い手をどう確保していくのか、それをどう育てていくのか、ということを取り組んでおられるプログラムになっているんだろうなということでは拝見させていただきました。

またお手伝いできることがありましたら、お手伝いさせていただきたいと思えます。今日はありがとうございます。以上です。

<会長>

ありがとうございます。御意見ございませんでしょうか。

<委員>

今、いろいろ話を聞いていて、おかみさんの会としては、お客さんにいろいろ見ていただくということが一番いいんじゃないかなと思います。うちは小さな民宿なんですけど、小学校でうちの娘が使っていた京丹後市の本も置いていて、休憩のときに何となくそういうのを見ていたり、歴史に興味がある方も中にはいらっしゃいますので、宿のほうも副読本のようなものをいただけたらありがたいなと思います。

お客さんが暇な時間に何をするかっていうことを考えると、お客さんがお部屋で京丹後めぐりマップのQRコードから見ていただく、そういう関係で京丹後市のことを知っていただくというのはありがたいなと思っておりますので、こういうことをしていただけるのはありがたいと思っております。以上です。

<会長>

ありがとうございます。ほかに御意見いかがですか。

<委員>

丹後震災記念館の利活用の検討をこれからされるということですが、どういう方向で話がされるのかすごく楽しみにしています。公民連携ということも書いてあるので、何か面白い形に利活用されていったらうれしいなっていう希望を伝えるようなものなんです。京都市だったりとか神戸だったりとか、素敵な建物、洋館だったりとか古い建物にアパレルショップやカフェが入っていて民間が使うような利活用の方法がされているところが多いかなと思います。

震災記念館に行ったときに、ロケーション、周りの自然環境と建物の感じが、京丹後の中で一番かっこいいところなんじゃないかって思うぐらいすごい感動して、でも耐震化がされていなくて中の見学もできないということで、すごく残念だなという気持ちになりました。こういうことがされることによって中が見れるという楽しみだったり、その中でコーヒーが飲めるとかだったら何回でも人を連れて行くなっていうふうに感じた場所だったので、資料館にするとかそういう感じにだけはしないでほしいなと思います。

例えば、網野の郷小学校が資料館になる前はイベントとかで結構活用していて、何回も足を運んでいたんですけど、資料館になると1回見たらもういいやみたいになってしまうので、稲葉本家さんみたいな感じで、カフェもあるから見学した後お茶をするとか、民間の人たちのレンタル料が入って次の文化財保護に活用されるとか、中途半端に公共的な感じとかじゃなくて、人が何度も足を運ぶ仕組みを前向きに検討して行ってほしいなという希望です。以上です。

<委員>

1つは、私が今仕事しています大宮織物ホールに、この5月とても立派な壁画が完成しております。羽衣天女がタンクトップを着た、とても現代的な、大変楽しいものになっていますので、ぜひ1度見ていただければなと思っております。

もう1つは、特に説明はありませんでしたが、資料館の多言語化ということが触れられていまして、これは引き続き検討を行うということで、直ちにどうこうということではないのかなと思っていますが、会長はよく御存じだと思いますが、丹後の観光業界はカニに依存してしまっていて、冬の休日は多いが、それ以外のオフシーズンは暇で、平日は全く暇でというのが非常に大きな課題です。ところが隣町の伊根町に行くと、平日でも外国の方がうろうろされていて、宿泊者の半数以上今は海外の方になっています。京丹後も、私の知っている限り、今1軒の民宿さんが、豪華な料理はやめて、むしろ海外の方に来ていただいて、半分が今既に海外の方になったという宿もあります。

そんな考え方もあって、今流れとしてはそういうことになってきていて、観光業の次の課題解決するのも、海外の方もお迎えするというのは必要なというふうに考えていて、そういう意味では多言語化というのは非常に重要というか、前倒しで進めていただくとよいかというふうに考えております。企画はまだ見えないんですけども、それほど手間がかかることではないのかなというふうに思っているのです、どんどん進めていっていただけるかなと思っています。

<委員>

3点あります。

動画とか、無形文化財のお祭りとか祭事、芸能に関することは、私が今海の京都DMOで文化観光サポーターとしてやっていることそのものでして、今年着任したばかりなんですけど、今年の私のミッションは、京丹後市の秋のお祭り系の無形文化財の記録映像とPR映像撮影のコーディネートをするっていうところになります。そこで撮った映像とかも地域にどんどん還元していく方針で海の京都DMOはやっておりますので、そちらのほうは地域とDMOと教育委員会と連携を取って活用できたらなと思っています。記録映像に関してはそれが1点目です。

2点目は震災記念館のことで、パブリックミーティングを今年度中に3回から5回開催されるとのことですが、今年度中となるとあと少ししかないなと思っています、パブリックミーティングの在り方を考えたほうが良いなと思っています、今ほかの委員がおっしゃっていたような意見がパブリックミーティングどんどん集まってくると思うんですけど、みんなの意見を聞いたその経緯をつくるためのパブリックミーティングにはしてほしいというか、市民の意見とか、学生、高校生とかも興味がある子いると思いますし、大学生や学識者いろんな人の意見をちゃんと拾い上げる場としてパブリックミーティングをつくっていただいて、それを専門的なプロジェクトチームの人が吸い上げるという形はきちり保っていただきたいなと思っています。いろんなミーティングとかを見たり、参加したり、噂で聞いたりとかしていると、「言い訳に使われただけやんな」みたいなパブリックミーティングもあるのかなあと思っていて、そうはならないでほしいなと思ったところです。

3点目は、網野銚子山古墳のイベントについてです。来年度されるとのことなので今年度は準備の段階かと思いますが、このイベントがどこまで盛り上がるかによって、先ほどあった古墳ツアーとかが決まるなと思ったので、この古墳のイベントが、ただ楽しげなお祭りになるだけじゃなくて、今後も続く、今後につながる、なんで古墳でこのイベントをやる必要があったのかとか、来た人が本当に銚子山古墳に興味を持つかみたいところを考えつつやっていってほしいなと思いました。小さいものから大きいものまでいろいろなところではいろいろなお祭りがあると思いますが、なぜそれをやるのか、なぜそこでやらなきゃいけないのかみたいところが曖昧なままやってしまうと、やって楽しかって、飲食店にお金が入った、OK、みたいになってしまうんじゃないかなみたいなと思っています、古墳を大事にするためにやるのであれば、今年

は網野銚子山古墳、じゃあ次整備する古墳でまた次のイベント、整備をするんじゃないから、今年はこの古墳にフォーカス当てますよとか、そういうところでやれたらいいなと思うのと、まだこれは多分案の段階だと思うので分からないんですけど、学べるイベントであってほしいなと思っていて、私は普通に二十何年生きてきて、自分の地元のこと知らないし京丹後の古墳のことこの仕事をするまで知らなかったの、知らない人がたくさんいる中で「ふと遊びに来たらなんか学んで帰れた」みたいな、お得というか、学んで帰れる楽しいイベントになればいいなというのを希望としてお伝えして終わります。ありがとうございます。以上です。

<会長>

いろいろ御意見ありがとうございます。それこそ観光業者としましても、閑散期も隣の伊根町のガイドさんはめちゃくちゃ忙しいという話を聞いていて羨ましい感じですね。あと私も個人的に、民泊の方が海外対応されたら急に忙しくなって英語のレッスンをしなくちゃいけないほどになっているとお聞きしたりして、新たな時代になってきているのかなと思います。

それでは、地域計画に基づいた主要実施事業について今出た御意見をしっかり反映し、着実に進めていっていただきたいと思います。

議事は以上になりますが、全体を通しての御意見、皆さん、これが言いたいなということはございませんでしょうか。

<委員>

よろしいでしょうか。

全体に関して、特に事務局に向けて2つ要望です。資料3のつくり方、先ほど網野銚子山のやつがどういう方向を向くのかというのが大事だよねみたいなお話がありましたよね。先ほどの話と被りますが、せっかく地域計画で歴史文化とか11のストーリーをつかったわけです。しかも京丹後市の場合はそれを光というキーワードを委員会のみんなで作ってそれを磨きましょうという方向性を地域計画でつけたわけですよね。そうなったときに、この資料3に出てくる主要な実施事業というのは、その11のストーリーのどれに関わるのかみたいなのが明示されないといけないし、それらが各事業の中の骨子となって市民の方、参加される方にも伝わっていくような、そういう方向性を持った事業にしないといけないと思うんですよね。

そのときに、例えば、資料1の、(1)は全体に関わるもの、(2)も全体かもしれませんが、網野銚子山古墳整備事業が、その次のページの高龍小学校の連携というのは、例えば丹後王国の成立から交流というストーリーに直結するようなもので、今年度はこのストーリーを磨きますよとか、この委員会で作ってくると、なるほどってなるし、磨くためにこういう内容にしたいんだみたいなのがあれば、先ほどの御意見にも上手くはまるのかなという気がします。

計画なので、目指すビジョンがあって、それに向かって適切に手段が選ばれていく

というのが計画となりますので、せっかくその道筋をつくったので、道筋を常にフィードバック、振り返って、そのロードマップを展開していくというような方向性を、ぜひ資料づくりからしていただければと思います。

すいません、もう1個言ってしまうんですけども、資料2の作り方が少し分かりにくいので、次年度になるかもしれませんが修正いただければと思います。資料2は、進捗管理というところ、今回私たちは一応進捗管理する委員会でもあると思うので、そこを見て行って、そこ自体は何も問題ないんですが、何か丸が全くないというのは、計画がないのか、これは法定計画ですから国が認めたということは、それに基づいて計画を推進しないと怒られる、怒られるっていうのはあれですけども、だめということになります。京丹後市さんの総合計画、また中期計画の中で年次計画でマルバツとかつくっていると思うんですけども、それにしたときにこれはバツがつく可能性があるということをもう少し自覚していただければと思います。

逆に、真ん中のほうにある計画の期間、前期3年、後期2年、次計画の中で、次期計画にだけ丸が付いているやつとかありますよね。例えば、資料2の2ページの一番外、13番とかは、この文化財活用実践セミナーの開催というのは、計画的には次期計画に丸が付いているので、今期の5年間はしなくてもいいわけですよ。なんだけども右のほうを見ると、R5もやっているし、R6もやろうとしているし、7以降もやろうとしているというのは、これはある意味で、次期計画を前倒しでやりましたということになるわけです。これは大きな顔をして、前倒しでやっておりましたみたいな感じになってもいいような案件というふうに見えるってことになるんですけども、結構そういうのが多いんです。前期は丸が付いてない、後期から丸が付いているけども今年度とか昨年度からやっているみたいな、あまりにも多くて、そうなる、前につくった計画「これなんか誰やった」みたいな感じにも見えてしまうことになる。次期計画だけに丸が付いている辺りは、今期は次期まで温めておきますぐらいの備考で何も問題ないのに、なんか無理してやろうとしていませんかみたいな感じにも逆に見えてしまいます。なので、本来丸が付かないといけないところに付いていないところがある一方で、付かなくていいところにマルが付いているので、この辺りは進捗管理として、事務局の中、他の部署の皆さんとも少しその辺り、法定計画だっというのをしっかりと意識された上で、資料つくっていかれたほうがいいのかという気がします。まだ2年目ですから問題ないんですけども、最終年度ぐらいになっていくと、この辺りシビアになっていくかと思しますのでよろしくお願いします。

すみません、なんか余計なこと言ったかもしれませんが、以上です。

<事務局>

ありがとうございます。御指摘いただいたことはそのとおりでなと思いますので、次の準備をするときに、参考に反映していきたいと思っております。

<委員>

全体のお話の後に恐縮ですが、個別の部分で、文化政策の話があってそこに関連してなんですけれども、情報発信の項目はこの実施調書のところにはっきりとはないのかなと思って、関係するところというところ4ページ目の22番の歴史文化を活かしたコンテンツプロデュースする人材の育成のところなのかなと思ったんですけども、まだ新規ということでこれからだと思いますが、ぜひパフォーミングアーツと連携してやれたらいいんじゃないかなというふうに思いまして、国内外に京丹後の魅力を発信して、こんな綺麗なところなら行ってみたいなって思ってもらえるような動画を発信する上で、パフォーミングアーツと連携できたらいいんじゃないかなというところ。例えば山形県だと山形交響楽団、山形県内の景勝地で演奏して、演奏を配信するだけでなく、景観、景色とともに配信をしていたり、山形県のアーティスト・イン・レジデンスをきっかけに山形に移住したアーティストさんがYouTubeで、山形県あちこちで背景を描きながらそれを発信して、それプラス、ピアノYouTubeとコラボレーションしたりして、そうすると若者はYouTubeで見て、こんないいところあるんだなって気づくので、こういうプロデュースする人材を育成するというのも1つですけども、もしかしたらそういう団体だったり、アーティスト個人だったり、自発的にそういうのを考えていったらいいのかなとは思いますが、そういった何かきっかけづくりっていうのもあったらいいのではないかなと思いました。

あと具体的には生涯学習課の文化政策のほうと連携して、アーティストの支援といった側面でそういったところもできたらいいのかなと、情報発信の部分で思いました。以上です。

<会長>

ありがとうございました。それでは議事は全て終わりましたので、事務局に進行をお返しいたします。

3 その他

4 閉会

<事務局>

閉会に当たりまして副会長に御挨拶いただくところですが、本日御欠席のため、文化財保存活用課の課長の村田から御挨拶をさせていただきます。

<村田課長>

皆さん失礼します。

本日は10時から12時まで非常に長い時間、この会議に参加していただき、また、活発な議論といたしますか御意見もいただき、ありがとうございました。

去年から文化財保存活用課としてスタートして、私もそのときにこちらに着任させていただいて、この1年ちょっと過ごさせていただいて、本当にこの文化財っていうの

は、奥が深く、ただ今までのことをやっているだけではだめで、これからこの計画の光をどう将来に導いていくのかが本当に大切なことだと思います。

そのような中でこの推進協議会はそのコアとなる部分の会議でありますので、欠席の方もいらっしゃると思いますがZ o o mで御参加いただいて意見をいただくというのは本当にありがたいことです。

これからもどうぞ京丹後市のために、皆様の御意見をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは本日はどうもお忙しい中ありがとうございました。

以上で終わらせていただきます。

<事務局>

ありがとうございました。

これをもちまして令和6年度第1回京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会を終了いたします。

皆様どうもありがとうございました。